

先進地視察概要と出席者アンケート結果

1. 先進地視察の概要

開催日時：令和4年2月28日（月）10時00分から15時30分
視察先：もりやまエコパーク環境センターおよび交流拠点施設
草津市立クリーンセンター
視察内容：①施設概要説明（DVD鑑賞）
②現場見学
③質疑応答
出席者：9名（新ごみ処理施設整備連絡協議会委員）

2. アンケート結果

(1) 今後、新ごみ処理施設整備で協議していくにあたり、参考にしてほしい設備や機能はありましたか。

①あったと回答：8人 ②なかったと回答：1人

(2) (1)の質問で①に回答された場合

どのような設備や機能が参考になりましたか。施設ごとにご記入ください。

【ごみ処理施設】

- ・ごみピット2段ピット方式（受入部と貯留部に分けての運用と省スペースで多くのごみを貯めることが可能）
- ・ごみピット（高くごみを積み上げて一定容量のごみが蓄えられる。ガラスの洗浄設備や火災時の消火設備、底部の排水設備、ピット内の気圧を下げて臭気を外に漏らさない。）
- ・焼却炉（災害ごみ用のゆとりとして容量が確保されている。）
- ・蒸気タービン発電機（熱を利用し、効率よく発電し、高効率で無駄がない。）
- ・ストックヤード（ごみの種類ごとに受け入れヤードが整備されている。）
- ・破砕機（不燃・可燃・アルミ・鉄に分別されて、リサイクルされている。）
- ・煙突（煙突が見えない。目立たない。景観に配慮されている。）

【環境学習施設】

- ・施設見学スタッフ
- ・大型研修室
- ・環境学習DVD、パンフレット
- ・見学通路
- ・展望スペース
- ・体験型学習設備（説明板や写真などの展示物、立体的な映像と音響）
- ・学校の授業のカリキュラム
- ・温水プール（熱回収施設からの熱供給）
- ・温浴施設（熱回収施設からの熱供給）
- ・リユースステーション
- ・トレーニングエリア
- ・キッチンスペース

(3) (1) の質問で②に回答された場合

理由をお聴かせください。

- ・新たに参考にしたい設備や機能といったものは見当たらなかった。

(4) 本日の先進地視察の感想、その他新ごみ処理施設建設に関してご意見等がございましたらお聴かせください。

【視察、施設見学に関すること】

- ・ 2段ピット等施設が古くなりトラブルが発生したときに自前でごみを貯留できる設備があると良いと思った。
- ・ ごみ処理は人の生活に欠かせなく、長い間ストップできない。それを担保したうえでの必要最低限の規模とすることが大切だと思いました。
- ・ 発電に使用した水蒸気を施設の内外に循環させ、熱エネルギーとして給湯や暖房に直接利用する仕組みは、高効率で無駄がないと感じました。
- ・ 景観に配慮され、高い煙突がなかったこと。70トン級の小規模施設でも高い発電効率をされている。
- ・ 展望施設については、京都の煙突展望台の方が魅力的である。
- ・ 守山市の交流拠点施設に関して、ごみ処理施設の熱を利用した温水プールなどの取り組みは非常にいいと思いました。市民が利用できる施設をごみ処理施設の中に作り、多くの市民が利用することにより、ごみに対しての認識が深まって行くことが重要だと思います。
- ・ 施設紹介の映像、パンフレット、見学ルート等において、デザインやレイアウトが統一されており、ごみ処理の構造を体系的に理解できるように配慮されていました。
- ・ 環境学習施設に併設されていた温水プールやキッチン、入浴施設等について参考になった。
- ・ 防災拠点として活用するために環境学習スペースが避難に対応する広さがあることや調理スペース、お風呂などの設備があることが望ましいと感じた。(プールまでは無理)
- ・ 市それぞれの設置条件があり、それが反映されている。
- ・ 市民の環境学習の場として設計段階から計画的につくられてきている。
- ・ プラスチックの分別方法や回収方法を工夫し、国がすすめる方向性を見極めながら、十分に対応していける施設となるように設備を導入していく必要があると感じた。
- ・ 市民の分別に関する理解と協力が必要である。プラスチックの再生については、すべてリサイクルすることは難しいが、国の法改正にともない、今度検討していくとのことであった。

【新ごみ処理施設建設に関すること】

- ・ タービン排熱を利用した高齢者が利用できる施設にできないか。
- ・ 周辺を整備、発展させるプロジェクトチームを作れないか。
- ・ 施設を中心に市民が憩える地域に仕立てていく姿勢や市で運営されているので、広域行政組合でも湖東地域がまとまる場として、展開していけないか。
- ・ 粗大ごみを4分別できるリサイクル施設を導入してください。
- ・ 現在のごみに対して燃焼時の熱を利用した発電を行う等合理的な施設でしたが、プラスチックごみを燃料として使用されていました。SDGs やカーボンニュートラルが世

界指標となっているにも関わらず、プラスチックごみを燃やすことは理解できません。CO2を削減し、地球環境を守っていくために、現在可燃物に含まれているプラスチックごみを更に分別していく方法や施設を考えていくべきだと思います。また、生ごみの水分除去などを行い、燃焼効率を上げることにより、燃やす量も削減できると思います。このような対策を行うことにより、CO2削減ができ、焼却施設も縮小できるのではないのでしょうか。地球環境を守っていくことと、近隣住民の健康を第1優先に考えていくべきだと思います。失われた自然、環境は二度と戻ってこないことをご理解いただきますようお願い申し上げます。

・荒神山を背景として建設する上で、景観に配慮することになると思うが、出来れば煙突を目立たないような設計にならないか。

・温水プールは無理としても、災害時の避難施設として、シャワー等が利用できる設備があればいいと思う。同様にキッチン等はあればいい。

・これからのごみ処理施設は、過去の迷惑施設というイメージではなく環境学習のみならず、いろいろな機能を併せ持つ誰でもいつでも訪れる場所とすべきであり、そのためにも、環境学習施設内に、キッチンやシャワールーム等を設置してほしい。

・ごみの減量、ごみの分別、生ごみ減量など、市民の理解と協力が必要であり、今後どのように啓発をすすめていくか、各市町連携し、今から取り組んでいくことが望ましい。

・荒神山麓にて建設されようとしている規模と同程度の「草津市立グリーンセンター」と半分の処理量である「もりやまエコパーク」でしたが、どちらも最近建設稼働されたものですが、特段に参照したい設備や機能は発見できませんでした。ただ、両施設ともに災害時の処理量設定が、通常の稼働量の10%を加えた処理能力として設計稼働されている点でした。荒神山山麓で稼働予定の処理量は、現時点でのごみ排出量の20%を超えている設計をされていたと思うのですが、もう少しコンパクトな処理量での施設に設計し直せるのではないかと思います。将来的にごみ排出量を軽減する方向で取り組んでいるのであれば、もう少し規模を小さく建設できるのではないかと思います。守山市や草津市とは違って、彦根愛知犬上圏域では山林の占める割合が多く、災害時に発生するごみの種類による量の違いであればそれで良いのですが。